大分県内での岡山孤児院の音楽幻燈(活動写真)隊の活動実態

―1900(明治33)年2月の中津町での活動内容を中心に―

○　淑徳大学長谷川仏教文化研究所　　菊池　義昭（会員番号000095）

キーワード　岡山孤児院、音楽幻燈(活動写真)隊、大分県内

１．研 究 目 的

筆者はこれまで、岡山孤児院の養護実践等の研究を実施してきたが、いまだ十分に解明してこなかった研究課題として、同院が1897(同30)年2月から本格的に取り組んだ、音楽幻燈(活動写真)隊の活動実態の解明があった。同隊は、1911(同44)年10月までの約14年8ヶ月間にわたって、全国各地の市町村を巡回して寄附金募集等を実施し、同院の主要な財源を獲得し、養護実践などを支えることに貢献した。そこで、本稿では、大分県内での同隊の活動実態を解明し、その歴史的役割を分析する。特に、1900年2月に中津町で開催した音楽幻燈会を中心にまとめることにする。

２．研究の視点および方法

そこで、同隊の活動実態を解明し、その歴史的役割を次の3つの視点から分析する。①同隊による寄付金募集の具体的な実態と、同院の養護実践の量と質を担保するための有力な財源としての歴史的役割を分析する。特に、同隊が全国各地の市町村を巡回し、どのような音楽幻燈(活動写真)会（慈善会）を開催して寄付金を募集したのかなどの実態を解明する。さらに、②全国各地の市町村での慈善会では、同院の養護実践の現状を参観者（一般民衆）に紹介して、社会の同情を呼び起こして啓蒙したと仮定でき、その歴史的役割を分析する。そのためには、まず参観者個人の氏名を特定し、その後、先の参観者への同院の養護実践の紹介が、院児（孤児等）の発達と成長および人格形成を保障するような啓蒙になり、子どもの権利保障の源流の1つに繋がるか否かを分析する。また、③同隊による慈善会の開催手法が、有力な運営資金の確保の方法であることを、全国各地の慈善事業家などに気付かせ、各地で同様に近い慈善会が実施されるようになり、その結果、全国的に慈善事業施設（団体）が増加する基盤の1つを創り出す社会現象が生まれたと仮定でき、その歴史的役割を立証したいと考える。なお、以下本文中の引用文献等は省略する。

３．倫理的配慮

本研究では、一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規程にもとづき、福祉サービス利用者について述べる場合は、個人が特定されないように配慮している。

４．研 究 結 果

岡山孤児院の音楽幻燈(活動写真)隊が、大分県内で最初に活動したのは1900年2月に中津町で開催した音楽幻燈会からであった。その後は、7年後の1907(同40)年4月15日、16日にやはり中津町での開催が確認でき、同年12月11日からは別府町、大分町、戸次村、

竹田町、三重町で開催し、引く続き翌1908(同41)年1月4日からは日出町、杵築町、佐伯町、臼杵町で実施した。また、同年10月5日からは、活動写真隊だけで長洲町、中津町を巡回し、1909(同42)年1月30日から3月中は大分町、戸次村、武蔵町、旭日村、上国崎村、国東町、西安岐村、西武蔵村、富来町、中武蔵村で開催し、翌1910(同43)年3月から5月は佐伯町、同町付近3ヶ村、竹田町、三重町、鶴崎町、鉄輪、別府町、日出町、八坂町を巡回したことが確認できた。このように、大分県内では、1907年から毎年のように音楽活動写真隊等が巡回し、寄付金募集を実施することになるが、本稿では、1900年2月7日、8日の中津町での音楽幻燈会の活動実態を解明し、その歴史的役割にも迫ってみる。

この中津町での音楽幻燈会は、石井十次院長が青年音楽隊員9人等を引率し、同町で最初に開催し、その後、福岡県内の市町と下関市を回り、堺市から中部、東海地方の主要市町を経て、北海道内を巡回する「東方運動」の起点になった活動であった。このため、出発前の同年1月20日に、石井院長と大西義一、林長知、小野田鎮の各先発準備員が相談会を開催し、同院長は日本全国を「征服」（巡回）することを決意した。その後、大西は、1月24日に岡山孤児院を出発し、下関市を経て30日に中津町に到着し、長春園旅館に滞在し同幻燈会の開催準備に着手し、石井院長の同窓の右田医師の協力を得ることができた。また、右田医師等の尽力で、郡長、町長、警察署長など74人（氏名が確認できる）の発起者が集まり、2月7日、8日に寺町の常春館で開催することを決定した。そこで、2月3日大西は、石井院長宛に電報で開催準備が整ったので、音楽幻燈隊の来中を要請し、5日石井院長と青年音楽隊員一行が出発した。そして、7日と8日に同幻燈会を開催し、2日間とも「大盛會」となった。その結果、入場券代、寄付金、書籍売り上げの総収入が304円72銭5厘で、総支出が98円86銭であったため、収益金が205円86銭5厘に達した。

また、新賛助員にも101人（氏名が確認できる）が加入し、その中には、次のような添書を添えて入会する者がいたため、同幻燈会での啓蒙の事実が理解できた。

私事一家の細き煙り上けくらし居候處今回貴院の慈善幻燈説明により朝夕髪油にても毎日二三厘の節検を致し日本四千萬人の急務御慈善の聊かなりとも御送金可致候云々

（『岡山孤児院新報』第41号、1900年3月25日付）

つまり、この添書からは、同幻燈会で石井院長が、岡山孤児院の賛助員募集の具体例を紹介し、その説明を聞いて啓蒙を受け、貧しい生活の中で、「髪油」の使用を節約し、賛助員に入会した人がいた事実が理解できた。また、この節約は、4000万人の日本人の「急務」と、石井院長が訴えていたことが推定できた。

5. 考察

このように、中津町の音楽幻燈会では、収益金が205円86銭5厘も集まり、同院の賛助員募集活動を紹介して、社会的同情を呼び起こし、参観者を啓蒙した一端が理解できた。また、その参観者数は確認できないが、少なくとも発起者74人と新賛助員101人は参観者と理解でき、かつ、その氏名が確認できたことで、参観者がほぼ特定できたことになる。